

## 令和3年度 学校運営連絡協議会実施報告書

### 1 組織

- (1) 東京都立足立東高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 主幹教諭（教務主任、進路指導部主任）計2名
- (3) 内部委員の構成  
校長、副校長2名、経営企画室長、教務主任（主幹教諭）、生活指導主任（主幹教諭）  
進路指導主任（主幹教諭）、健康・環境主任（主任養護教諭）計8名
- (4) 協議委員の構成（氏名の掲載も可）  
近隣小学校長、近隣中学校長、地域警察関係者、地域消防関係者、区就労支援課職員、  
近隣自治会長3名、PTA会長、PTA役員OB会長 計10名

### 2 令和3年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
  - 第1回 令和3年6月25日（金）内部委員8名、協議委員7名
    - ①校長挨拶
    - ②自己紹介
    - ③本校の現状と課題  
分掌の組織目標と計画（教務部、生活指導部、進路指導部、健康環境部）
    - ④質疑応答
  - 第2回 令和3年11月19日（金）内部委員8名、協議委員7名
    - ①校長挨拶
    - ②本校の現状と行事等  
新型コロナウイルス感染症対策と対応、体育祭、文化祭
    - ③学校評価アンケートについて  
・アンケート内容について  
・アンケートの配布方面と回収方法等について
    - ④質疑応答
  - 第3回 令和4年2月に文書送付により書面開催（新型コロナウイルス感染症対策のため）
    - ① 学校評価アンケートについて（別紙参照）
    - ② 学校評価について
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他  
新型コロナ感染症対策のため、開催実績なし。

### 3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点
  - 生徒・保護者（一部地域の皆様）に対して
    - ①学校生活全般に対する満足度
    - ②授業に対する満足度
    - ③進級・進路に対する意識・満足度
    - ④社会規範に対する意識傾向 の観点で実施する。
  - 地域の皆様に対して
    - ①地域社会との連携
    - ②情報発信
    - ③生徒の規範意識 の観点で実施する
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

・12	全校生徒	対象：426人	回収：392人	回収率：92.0%
・1月	保護者全員	対象：426人	回収：90人	回収率：21.3%
・12月	地域・住民	対象：120人	回収：113人	回収率：94.0%
・1月	教職員	対象：47人	回収：45人	回収率：96.0%
- (3) 主な評価項目
  - ①学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、健康・安全、施設・設備、地域社会への貢献及び連携などの評価項目を、学校の実態に合わせて設定した。
  - ② 対象者への質問項目を可能な限り共通にすることで多角的かつ客観的なデータを得るようにした。
  - ③ コンピュータによる集計を行い、多様な観点からの分析ができるよう工夫した。
  - ④ 生徒アンケートに「大規模災害時に地域貢献したいか」を問う項目を設けた。

評価アンケートの内容は、生徒が15項目、保護者が14項目、教職員が24項目である。学校運営の状況について、生徒の生活等の状況、家庭での状況、本校での生活に対する感想・気持ちについて質問している。地域の方に対しては、本校の学校運営に対する理解の状況、地域から見た生徒の状況について、地域連携の必要性について質問している。令和2年度と項目内容と項目数を同じにすることで、経年変化が分析できるようにした。

#### (4) 評価結果の概要及び分析・考察（校長や学校全般への意見・提言）

- ① 学校生活全般に対する満足度は、生徒、保護者ともに高い値を示しており、「足立東高等学校に入学してよかった」という回答は、生徒80%、保護者90%だった。引き続き新型コロナウイルス感染症対策を十分行いながら、生徒たちの安全な居場所となれる学校づくりを推進するとともに学び直しによる学力向上、行事や部活動の活性化、地域との交流等を充実させていきたい。
- ② 学校行事に関する満足度は、令和2年度より上昇し、生徒86%、保護者78%であった。新型コロナウイルス感染症による影響を受けつつも、体育祭、文化祭や合唱コンクールを工夫して実施できたことが大きく影響している。
- ③ 「気軽に相談できる先生はいるか」について、生徒、保護者ともに70%程度の方が、「いる」と回答している。生徒では、1年生の値が一番高く、2年生、3年生の値が低くなっていることから、教員と生徒とのかかわり方について常に検証していきたい。
- ④ 授業や教材の工夫に対して、80%以上の生徒が、「わかりやすい」と回答している。教員の98%が「工夫をしている」と回答しているので、すべての生徒が「わかりやすい」と実感できるように授業改善に取り組んでいきたい。
  - ⑤ 習熟度別授業については、80%を超える生徒が、「役立っている」と答えている。引き続き指導を徹底していきたい。
  - ⑥ 30分授業に対する満足度については、1、2年生の値が、55%、3年生の値が、88%となった。30分授業は1年次のみ行われるが、令和2年度から新型コロナウイルス感染症対策により、時差登校や分散登校、オンライン授業が行われたため、1、2年生の肯定的な値が低い。それに対し、令和元年度に通常授業が行われた3年生の値が高い値を示していると考えられる。
  - ⑦ 体験学習に対して、ほぼ80%の生徒が「積極的に取り組んでいる」と回答している。体験学習はエンカレッジスクールの大きな特徴であり、教科横断的な視点で、キャリア教育と結びつけた指導を引き続き行っていきたい。
  - ⑧ 進級、卒業の条件に関して、ほぼ90%の生徒が理解しており、教員の98%が「きちんと周知している」と答えている。生徒の理解が100%となるよう、今後も丁寧な対応を続けていく。
- ⑨ 「生徒と保護者の間の進路に関する話し合いがとれているか」との問いに、生徒のほぼ80%が「とれている」と回答しており、保護者の85%が「取れている」と回答している。生徒と保護者の間のコミュニケーション不足は進路決定の際に大きく影響することから、計画的に三者面談を実施し、学校が仲介役をうまく果たしていきたい。
  - ⑨ 本校の生活指導について、生徒の80%、保護者の90%に浸透している。自転車マナーへの評価では、マナーを守っている割合が、生徒、保護者とも90%を超えているが、近隣の方々の評価では、「マナーがよい」という割合は27%しかなく、自由意見でもマナー違反の様子が出されている。一部の生徒の行動が、足立東高等学校の生徒全体の行動として、強く印象付けられてしまうことを全生徒に理解させ、指導していきたい。
  - ⑩ 近隣住民からの評価は、「わからない」と回答する割合が多くなっている。今後とも地域との交流を通じて、学校の様子、取り組みを地域の多くの方々に発信していきたい。

## 4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

### (1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ① 経年的に、生徒、保護者とも学校に対する満足度が高い値を示している。引き続き、エンカレッジの本質である「生徒を励まし力付け、学び直しの視点に基づくわかりやすい授業」を心がける。
- ② 進級、卒業条件などの学校の決まりや生活指導が徹底できている、引き続き、生徒に授業規律を理解させる生活指導に取り組む。
- ③ キャリア教育に結びつけた、エンカレッジスクールの大きな特徴である体験学習の指導が、生徒、保護者に定着してきている。引き続き、キャリアガイダンスなど含め、教科横断的な視点で、キャリア教育と結びつけた指導を計画・実施する。

### (2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ① 近隣の住民からの、交通マナー等に関する評価が低い。ホームルームだけでなく、始業式や終業式などで重点的かつ継続的に注意喚起に取り組む。

- ②外部委員から「卒業生の就職未定者」について指摘された。令和3年度から2年生の三者面談を実施しているが、保護者や生徒にアンケート等を実施し、進路面談の有効性を検証する必要がある。
- ③外部委員から「コロナ渦により、アンケート内容が妥当であるか」指摘された。経年変化の視点からアンケート項目を変更せず、数値変化がコロナ渦による影響なのか判断する必要がある。

## 5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

### (1) 学校運営

- ①「学びの基盤」プロジェクト等を活用し、習熟度別授業、少人数授業による基礎学力の定着を図るとともに、体験学習とキャリアガイダンス、各教科を結び付けたキャリア教育の充実に取り組む。
- ②地域社会との連携を深め、地域人材の活用や部活動等を通じた地域との交流を推進する。
- ③生徒、保護者から理解される生活指導を大切にし、基本的な生活習慣、社会性と規範意識を身に付けさせる。
- ④教員の教育相談や特別支援教育への理解を深め、能力の向上を図るため、校内研修会を学期1回程度実施するとともに、OJTを実施する。

### (2) 学習指導

- ①授業参観シートを活用した教員相互の授業参観やOJTを推進し、教員の授業力向上を図る。
- ②習熟度別授業や少人数授業により個に応じた指導の充実を図っていく。さらに、「学びの基盤」プロジェクトを通して、「読解力」や「自ら学ぶ力」を育成する。

### (3) 特別活動

- ①部活動加入率の向上に取り組み、部活動の活性化を図る。
- ②地域のイベントに積極的に参加し、地域との交流を活性化させ、地域社会に密着した学校づくりを行う。

### (4) 生活指導

- ①生徒、保護者にわかりやすく指導方針を伝えるとともに、人権に配慮した指導内容の徹底を図り、学校・家庭・地域、関係機関が連携して生徒の健全な育成を行う。
- ②登下校時の自転車乗車における交通安全指導を徹底し、社会人として交通ルールを守る意識の向上に取り組む。

### (5) 進路指導

- ①1年次から「体験学習」、「キャリアガイダンス」や各教科を通じて教科横断的にキャリア教育に取り組むとともに3年時の「人間と社会」等により、3年間を通じて計画的に望ましい職業観・勤労観を育成する
- ②ユースソーシャルワーカーやユースアドバイザー、就職ナビゲーター等の外部の専門家と連携し、よりよい進路指導と相談体制を確立する。

### (6) 健康・安全

- ①教員研修会を実施し、教育相談能力の向上を図る。
- ②新型コロナウイルス感染症対策に取り組み、検温や消毒体制の充実を図る。

## 6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 10人

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
3	4	1				2

## 7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 職員会議 0回 企画調整会議 0回

## 8 その他

- ①学校評価アンケートに取り組むやすい視点から、保護者と生徒アンケートでは、スマートフォンによるデジタルアンケートを導入した。しかし、昨年度より回収率が低い結果となった。回収率を向上できるよう、学校ホームページでの周知を徹底するとともに、学校評価アンケート以外でもデジタルアンケートを実施する取り組みをとおして、デジタルアンケートの推進を図る必要がある。
- ②新型コロナウイルス感染症対策のため、令和3年度も1回が文書開催となった。来年度は、3回とも学校で協議ができるよう様々な方法を検討していきたい。